

## 関西広域連合 2021 年 2 月議会一般質問

尾崎充典

皆様、こんにちは。私は三期目の奈良県議会議員を務め、昨年 9 月より関西広域連合議員に選出されました、尾崎充典と申します。

今回の質問は大きく 3 点です。

いずれも関西広域連合の魅力を向上し、存在感を高めることに資して、かつ、現在奈良県が関西広域連合に参加している防災・観光に特化した質問とさせていただきます。

一問目は、関西広域連合の魅力向上についてです。

関西広域連合は、広域課題に地域で主体的に対応する仕組みを全国に先駆けて関西から立ち上げ、国から事務・権限の委譲を受けることにより真の地方分権を達成することを目標に設立されました。

しかし現状は、国からの権限移譲は、期待通りに進んでいるとはいえ、関西広域連合に対する住民の関心も薄れてきているように思います。

現に、各知事の議会への出席率や、議会における議論をみても、あきらめに近い状態があるのではないかと危惧しています。

**そこで、仁坂連合長に質問します。関西広域連合が 10 周年を迎**

え、新連合長に就任されたのを機に、今一度、関西広域連合の魅力を向上していくことが必要であると考えますが、まずは連合長のお考えをお伺いします。

また、道州制に対するお考えも併せてお答えください。

ご答弁ありがとうございました。現時点でのお考えが分かりました。

私は、関西広域連合の魅力向上には、住民の皆様に認知され期待される存在になる必要があると思っています。

そのために必要なアイデアをいくつか紹介させていただきます。

一つは、東京に一極集中している様々な機関の更なる地方移転についてです。

今日まで多くのご努力により、文化庁が京都へ、と移転が進んでいます。

そこで、仁坂連合長に質問します。関西広域連合の魅力を高めるためには関西地域への政府機関の移転をはじめ、東京に集中している様々な機関の更なる移転を進めていく必要があると考えます。

例えば、法務省と最高裁判所などの移転を目標にしてはどうかと考えますが、連合長の所見を伺います。

ご答弁ありがとうございます。

私のアイデア以外にも、可能性のあるものは奪い取るくらいの気概でよろしくお願いします。

次に、自主財源の確保についてです。

私は、関西広域連合に自主的に使える独自財源がないことが関西広域連合の魅力向上にとって最大の障害であり課題だと考えます。

財源の多くが府県・政令市の分担金、負担金であることが、府県や基礎自治体の皆様にメリットとして捉えにくくしていると思います。

オリジナルの財源が確保されれば、特に基礎自治体の皆様の見方も大きく変わるのでは、と期待しています。

今年1月に開かれた関西経済界との意見交換会の内容を読みましたが、その中で、私も共感できる地方分権への意見がありました。

一つは、昨今のコロナ渦を受け、地方への権限移譲や広域的な連携・地方分権の重要性について、改めて関心が高まりつつある状況にもかかわらず政府の動きが鈍く、移譲された権限が残念ながらなかった事です。

一方、昨今の骨太の方針では、コロナ渦を踏まえた分散の必要性についても言及されており、地方分権への社会的要請が高まる今、まさに経済界と強力に連携し、適切な権限移譲を推し進める時期に来ています。

具体的な提案もありました。広域で実施した方が効果的・効率的な事務の権限を予算と共に県や市から広域連合へ委譲すること、そして従来手法にとらわれず、関西広域でめざすべき姿に向けて必要な権限の具体例を国へ示す戦略を持つ、という提案です。

そこで、仁坂連合長に質問します。

関西広域連合の魅力向上に欠かせないのが自主財源の確保です。

自主税源、財源の確保にあたっては、例えば域内の企業の法人税の1%を関西広域連合に委譲することを求めていますでしょうか。また、カジノの収入に対する税の一部を関西広域連合に納めてもらい、広域でのギャンブル依存症対策などに充ててはとありますが、連合長の所見を伺います。

ご答弁ありがとうございました。

次に、連合長・委員と、連合議員の選出方法についてです。

仮に何らかの自主的な財源を確保できた場合に担保しなければならぬのが、我々連合議員や連合長、委員の皆様の民主的な立場をより強固にする必要性です。

そこで、仁坂連合長に質問します。

関西広域連合が税金を徴収するためには強固な民主的基盤が必要であると考えています。

連合長と連合議員は、住民の直接選挙で選ぶことにしてはどうでしょうか。直接選挙で選ばれることで、連合長と連合議員に「各府県・市の代表」ではなく「関西全体の代表」という意識が醸成される効果もあると考えます。連合長と連合議員の選出方法について、連合長の所見を伺います。

次に、広域避難・広域避難所についてです。

関西地域では南海トラフ巨大地震など、大規模な被害をもたらす地震の発生が想定されています。ひとたび巨大地震が起きれば、多数の被災者を被災府県の避難所だけで受け入れることができない可能性があります。

また、被害状況によっては避難が長期化することも想定されます。

被災自治体の負担を軽減するためにも、大規模災害発生時に府県域を越えた避難ができるよう、広域避難所を設置すべきと考えます。

また、「関西防災・減災プラン（原子力災害対策編）」では、原子力災害に備えてあらかじめ広域避難計画を作成し、避難所と避難手段を確保し、避難経路を設定するなど規定されています。南海トラフ巨大地震に備え事前に同様の対策を行うとともに、あらかじめ自治体ごとにカウンターパートとなる自治体を決めておいた方がいいと考えます。また、巨大地震を想定し、多くの被災者に対応するためには府県も積極的に避難所の設置を想定しておくべきと考えています。

そこで広域防災の井戸委員に伺います。

カウンターパートとなる市町村を決めておき、府県域を越えた避難ができるように広域避難所を設置すべきと考えますが、いかがでしょうか。

さらに、南海トラフ巨大地震に備えて、多くの避難者に対応するためには、府県も積極的に避難所の設置を想定しておくべきと考えますが、いかがでしょうか。

●私は、避難の長期化が予想され、被災自治体からの要請があり、仮設住宅などの準備が整うまでの間、希望される被災者をお預かりする、そんなイメージで考えています。

皆様もご存じのように、欧米からも「まるで難民キャンプ」と揶揄される日本の避難所の問題点、いわゆる詰込みによる劣悪な環境という実態があります。

災害に備え机上でもいい、シミュレーションだけでもしませんか。

もしもの時、自治体から要請があつてからでは間に合いません。

井戸知事、いかがでしょうか。

●次回の南海トラフ地震は東南海、東海、南海とほぼ同時に3連動で起こると予測されています。私が今回指摘したことで想定外でしたという言い訳はできない事と、そんな話は国でやるべきだと思われるなら関西広域連合の存在を否定していることにもなる、という意見を述べておきます。

次に、新たな観光資源の積極的な掘り起しについてです。

関西地域には、たくさんの魅力的な観光資源が存在します。しか

し、普段から当たり前のように存在しているものの価値は、地元の人には気づかれないことが多いものです。

関西広域連合が主導し、外からの目で各地域の魅力的な観光資源を掘り起こし、認定・指定することで、観光需要の増大が期待できると考えています。

そこで（仮称）関西広域連合指定の重要文化財や民族文化財、あるいはアニメや映画の聖地などのサブカルチャーの指定、さらには関西遺産やミニジオパークの認定をして、域内の観光資源を掘り起こしていくべきと考えますが、広域観光の西脇委員の所見を伺います。ご答弁ありがとうございました。

最後に、地元奈良県の埋もれた観光資源ともいえる歴史的景勝地をご紹介します。

屯鶴峯は奈良県香芝市の大阪府との府県境から数百メートルのところに位置する、県指定天然記念物の奇岩群です。

二上山の火山活動により火山岩の破片が沈殿し、その後の隆起により凝灰岩が露出、1,500万年に及ぶ風化と侵食で資料写真のような素晴らしい奇岩群が出来ました。

ハイキングや金剛葛城山系を縦走するダイヤモンドトレール、ある



いは、資料写真にもあるように4輪駆動のラジコンカーで遊べる知る人ぞ知る人気スポットになりつつあります。

奈良県版カッパドキアと検索すれば、『屯鶴峯』がトップに現れます。皆さまも一度検索してみてください。

一方で、この屯鶴峯の地下には太平洋戦争末期に掘られた地下要塞ともいえる戦争遺産が存在します。

この地下壕の目的は、八尾市にある飛行場、当時の「大正飛行場」から飛び立つ特攻隊の指令所であり、幸いこの地下壕の完成を待たずに終戦を迎えました。万が一完成していたら、特攻命令で多くの命が散っていったと考えると悲しい気持ちになります。

お手元にある写真資料は、この地下壕の保存運動に熱心に取り組まれる地元のNPOの方から提供を受けたものです。

写真にもあるように、現在では、防空壕の一部が京都大学の地震予知研究所センターとして平和利用されています。私は、このように地域の方々が保存・啓発の努力をされている観光資源に関西広域連合がスポットをあてる、新たな仕組みづくりをお願いし、質問を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。